

# 被ばく医療における看護師の役割

## Nurses' role in radiation emergency medicine

漆坂 真弓

Mayumi URUSHIZAKA

弘前大学大学院保健学研究科 講師

Department of Nursing Science, Hirosaki University Graduate School of Health Sciences

放射性物質による汚染や被ばくを伴う傷病者に適切な医療を迅速かつ的確に提供するためには、放射線の基礎知識のほか、放射線の身体影響および社会心理的影響、被ばくに伴う不安の理解と対応、傷病者や医療者の被ばく低減、汚染拡大防止など、放射線や被ばく医療に特化した知識・技術の習得が必須である。しかしながら、現状、看護基礎教育や継続教育の中で、放射線や被ばく医療について学ぶ機会は非常に少なく、行われている教育も断片的であることが多い。被ばく医療を必要とする事象は稀有なため、看護実践の場で経験を蓄積する機会も乏しく、馴染みのない状況下での看護実践は困難を極めることは想像に難くない。看護師にとって、放射線や被ばく医療に関する知識・技術、経験知が乏しいことは、被ばく医療を担うことへの不安、自信のなさの原因にもなり、提供する看護の質にも影響を及ぼしかねない。被ばく医療に臨むに際し、看護師自身が自信をもって看護を行うためには、系統的・継続的な被ばく医療の教育体制の構築並びにシミュレーション教育の活用が不可欠である。

筆者らが行った調査<sup>1,2)</sup>では、被ばく医療機関に従事する看護管理者は、被ばく医療の原則（救命優先）、除染方法、救命処置に関する知識・技術を身につけ、患者に声をかけ、除染処置に加えて通常の看護実践（医療行為、観察・状態把握、バイタルサイン測定など）を行い、看護の視点から患者の尊厳、立場・権利が守られているかをみること、状況に応じて責任者に相談することを期待していた。看護師自身は、被ばく医療の原則、医療処置・除染処置ならびに線量限度など放射線防護に関する知識・技術を携えて患者に声をかけ、状態観察を行い、医療処置・除染処置の記録を行い、処置に伴う苦痛の軽減に配慮することが役割ととらえていた。看護管理者、看護師ともに、被ばく医療に特化した技術の提供だけではなく、患者に寄り添うことも看護師の役割であることを認識しているといえよう。被ばく医療において看護師が不安なくその力を発揮するためには、平時から定期的に繰り返し被ばく医療の教育・訓練を行い、いつでも、どこでも、誰にでも、看護の視点にたった被ばく医療が展開できるような体制の構築と人材育成が望まれる。

### 引用文献

- 1) 漆坂真弓, 北島麻衣子, 笹竹ひかる, 他. 緊急被ばく医療において期待される看護職者の役割に関する研究: 看護管理者が期待する役割. 第6回日本放射線看護学会学術集会講演集. 2017, 123.
- 2) 漆坂真弓, 北島麻衣子, 笹竹ひかる, 他. 緊急被ばく医療において期待される看護職者の役割に関する研究: 看護師が考える役割. 第6回日本放射線看護学会学術集会講演集. 2017, 124.